

学内リサイタル講座 第6公演 ジョイント・リサイタル
Bon voyage dans le temps～時間を遡って素敵な旅を～

2021年9月24日(金) 開場 17:30 開演 18:00

会場 洗足学園音楽大学 前田ホール

PROGRAM

1 松本 せいら(Piano)

M.ラヴェル / 組曲《クーランの墓》より

2 小林 千夏(Flute) Pf.岡本 有子

O.タクタキシヴィリ / フルート・ソナタより第2、3楽章

3 加福 夏子(Saxophone) Pf.石田 多紀乃

J.イベール / 室内小協奏曲

4 岩井 心(Trombone) Pf.曾根 恭子

F.マルタン / バラード

～休憩～

5 高橋 芽生(Marimba)

内藤 明美 / 森の記憶

6 小泉 和世(Clarinet) Pf.星野 英子

R.シューマン / 幻想小曲集 Op.73

7 本間 美桜(Saxophone) Pf.大嶋 千暁

J.イベール / 室内小協奏曲

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉をあけるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客案内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束、プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

主催：洗足学園音楽大学・大学院

本日は学内リサイタル講座「ジョイント・リサイタル」においでいただき御礼申し上げます。洗足学園音楽大学のメインステージの前田ホールで、大学4年間の集大成の演奏を披露するために選抜学生42名による6回のジョイント・リサイタルを開催する運びとなりました。各出演日の学生がそれぞれの思いで、プログラムや副題を決め、この日の為に準備をしまっていました。専門コースの違いはあっても大きな会場で初めてのリサイタルを行う「責任と研究成果」を聴いていただければ大変な喜びとなります。出演学生が、その独自の構成と演出を競い、教員の講評審査を受けてこの舞台から巣立ち、現在は欧米各地に留学しコンクール受賞者や、国内外オーケストラ、教員、プレーヤーとして活躍する卒業生も多く、本学の講師として活躍する者もいるという喜ばしい実績を持っております。この演奏会を基に日本の、そして世界の楽壇へと羽ばたく彼らに応援の拍手をお願いいたします。

学内リサイタル講座 教授 渡部 亨

本日は、「Bon voyage dans le temps～時間を遡って素敵な旅を～」にご来場頂き、誠にありがとうございます。

タイトル部分である「Bon voyage dans le temps～時間を遡って素敵な旅を～」は本日演奏させて頂く作曲者の生きた年代が古いものや新しいもの、様々な年代を楽しんで頂きたいという意味を「Bon voyage dans le temps」というフランス語に込めてつけさせて頂きました。私たち音楽家は以前のように演奏会が出来ないことに苦悩していますが、そんな中前田ホールとという素晴らしい場所で演奏できることをとても嬉しく思います。

最後になりますが、本日の演奏会が開催できたのは、リサイタル講座教授である渡部先生をはじめホール関係者、そして本日お越しいただいた皆様のおかげです。心より感謝を申し上げます。

私たち7名と一緒に少しでも充実した時間を過ごしていただけますと幸いです。

第6回学生代表 岩井 心

1 松本 せいら(Piano)

M.ラヴェル / 組曲《クーブランの墓》より

Ravel Maurice (1875-1937) // Le tombeau de Copering

第1曲 Prelude

第5曲 Menuet

第6曲 Toccata

モーリス・ラヴェルは、近代フランスを代表する作曲家であり、スペインの国境近くのバスク地方で生まれた。1914年から1917年に作曲された《クーブランの墓》は、ラヴェル最後のピアノ独奏曲である。この作品は全6曲からなる組曲で、その一曲一曲が第一次世界大戦で戦死した友人へ捧げられた追悼、または追想曲となっている。曲名に出てくる“墓”というのは、フランス語では“tombeau”という語で、バロック時代のフランス音楽に特徴的な「故人を追悼する曲」という意味を指していると考えられる。

第1曲のプレリュードは、クラブサン音楽を思わせる古典的な様式でかかれており、細やかな装飾音符と、12拍子の流麗な旋律が無窮動的に流れていく。

第5曲のメヌエットは、優しい旋律が簡素で美しい和音に支えられた優雅な舞曲である。中間部のトリオには、“ミュゼット”と記されており、ややドラマティックに少しずつ高揚していく。その後メヌエットの主題が再現し、最後は美しく静かな余韻を残して終わる。

第6曲のトッカータは、非常にピアニスティックな一曲となっており、16分音符の同音連打が一貫して続き、トッカータらしく速い流れの中に、多彩な表現が盛り込まれている。次第に緊張感を高め、壮大で輝かしいコーダへ盛り上がり華やかに幕を閉じる。

〈Profile〉

松本 せいら(Piano)

北海道出身。駒澤大学附属苫小牧高等学校出身。

5歳よりピアノを始める。これまでにピアノを太田代路子氏に、現在ピアノを吉武雅子氏、室内楽を安永徹、市野あゆみの各氏に師事。

2 小林 千夏(Flute)

Pf.岡本 有子

O.タクタキシヴィリ / フルート・ソナタより2、3楽章

O.Taktakishvili(1924-1989)/Sonata for Flute and Piano

2. Aria 3. Allegro scherzando

グルジア国家の作曲家でもあり、自身の作品はグルジアの伝統的な音楽語法によって作曲され、広いジャンルにわたっている。今回演奏するこのソナタは、古典的な形式を持ちつつ、フルートの持ち味を引き出す一曲である。本日はその中から 2、3 楽章を演奏するが、2 楽章(Aria)の美しくもどこか熱い想いを訴えるような旋律、3 楽章(Allegro scherzando)は 2 楽章とは対照的に活気溢れ、中間部の旋律では民族楽器が奏でるような音楽の特徴が伺える。

〈Profile〉

小林 千夏(Flute)

千葉県出身。銚子商業高等学校出身。

第 31 回千葉県吹奏楽個人コンクール木管部門フルートの部において第 1 位、ヤマハ賞、第 3 回日本奏楽コンクール管楽器部門大学生の部において第 1 位を受賞。これまでフルートを佐藤大祐、ピッコロを菅原潤、室内楽を辻功、山根公男の各氏に師事。

3 加福 夏子(Saxophone) Pf.石田 多紀乃

J.イベル / 室内小協奏曲

Jacques François Antoine Ibert(1890-1962) // Concertino da camera

第 1 楽章 Allegro con moto

第 2 楽章 Larghetto-Animato motto

この作品は、1933 年にフランスのストラスブールで開かれた音楽祭で、ドイツ人のサクソフォーン奏者シーグルト・ラッシャーの演奏に感銘を受けたソプラノ歌手マリー・フロイントがイベルに作曲するよう働きかけた結果、1935 年に完成した。イベルは作曲にあたり、サクソフォーン奏者のマルセル・ミュールに助言を求め、完成後の最初はミュールによって放送初演が行われた。その 7 ヶ月後にこの作品が誕生したきっかけであるラッシャーによって公開初演が行われた。

この曲は 2 つの楽章で構成されている。第 1 楽章はアレグロの速さで活気あふれる旋律であり、ソナタ形式になっている。躍動的な第 1 主題と伸びやかな第 2 主題が対照的な性格である。第 2 楽章は、サクソフォーンの瞑想的な独奏で始まり、後半から快活な速さで生き生きとした旋律が展開され、技巧的なカデンツァを経て、軽やかに閉じる。

本来、室内楽編成である作品だが、今回はピアノ・リダクション版で演奏する。

〈Profile〉

加福 夏子(Saxophone)

神奈川県横浜市出身。三浦学苑高等学校卒業。12 歳よりサクソフォーンを始める。

第 30 回日本クラシックコンクール サクソフォーン部門大学の部 全国大会出場。第 7 回 K サクソフォーンコンクール大学の部 優秀賞受賞。

これまでにサクソフォーンを貝沼拓実氏に、室内楽を江川良子、本堂誠、貝沼拓実の各氏に師事。

4 岩井 心(Trombone)

Pf.曾根 恭子

F.マルタン / バラード

Frank Martin(1890-1974) // ballade

スイス生まれの作曲家マルタンはチューリッヒで学んだ後、ローマ留学を経て、パリで、ドビュッシーなどの印象派の影響を受けた人物である。シェーンベルクの 12 音技法にも近付いたほか、ジャズの楽器を交響曲に取り入れる試みをしたこともありました。マルタンは、独奏楽器 (サクソホーン、フルート、ピアノ、トロンボーン、チェロ) とピアノ又は小オーケストラのために、「バラード」を 5 曲残しました。本日演奏するトロンボーンとピアノの為のバラードは 1940 年ジュネーブ国際音楽コンクールのトロンボーン部門課題曲として作曲されている。この曲は十二音技法を使ったメロディが様々な形に変化して音楽が作られている。トロンボーンソロの物憂げな様子から始まり、軽快なアレグロ、狂気を感じる 8 分の 6 拍子のフレーズ、様々な変化をお楽しみ頂きたい。

〈Profile〉

岩井 心(Trombone)

神奈川県出身。千葉県立市川昂高等学校出身。現在トロンボーンを小田桐寛之氏、室内楽を佛坂咲千生、府川雪野の各氏に師事。

5 高橋 芽生(Marimba)

内藤 明美(1956-) / 森の記憶

何千年も昔から森と人は共に生きてきた。時には人にめぐみを与えてくれる森は、人々の想像力を掻き立て、神秘的な物語を創りあげる。奥深いところには荘厳さや物悲しさがあり、相反して愛と生命の光を感じる空間も存在する。

この曲はそんな生命の力が宿る木から作られたマリンバのために書かれた。現代社会の忙しさに生きる私達とは違う、時

代を超越する象徴としての森の世界観を表現したい。

〈Profile〉

高橋 芽生(Marimba)

宮城県出身。宮城県泉館山高等学校出身。

8歳より打楽器、13歳よりマリimbaを始める。これまでに打楽器を鶴岡たみ子、寺山朋子、石井喜久子、小川佳津子の各氏に師事。和太鼓を林英哲氏に師事。

6 小泉 和世(Clarinet)

Pf.星野 英子

R.シューマン / 幻想小曲集 Op.73

Robert Schumann (1810-56) // Fantasiestücke

第1曲 Zart und mit Ausdruck

第2曲 Lebhaft, leicht

第3曲 Rasch und mit Feuer

ロベルト・シューマンは、ドイツ・ロマン派を代表する作曲家。ベートーヴェンやシューベルトの音楽のロマン的後継者として位置づけられ、交響曲から合唱曲まで幅広い分野で作品を残した。とくにピアノ曲と歌曲において評価が高い。この作品は、比較的短い3つの小品から成り、それぞれ異なる性格を持つ。その一方で、各曲には三連符のリズムや動機の連関が存在し、また指定のテンポが徐々に加速していくように設計されているなど、全曲の統一も図られている。以下の3曲から構成されている。

1. Zart und mit Ausdruck 「静かに、感情を込めて」 イ短調、4/4拍子。静かでゆっくりとした主題が、3連符を奏でるピアノの上で揺られる。
2. Lebhaft, leicht 「活発に、軽やかに」 イ長調、4/4拍子。1曲目のピアノパートに暗示されていた主題が軽やかに奏される。
3. Rasch und mit Feuer 「急速に、燃えるように」 イ長調、4/4拍子。指示の通り炎のような勢いのある終曲。勢いよく上昇するモチーフが度々現れ、たたみかけるように曲が進行していく。

〈Profile〉

神奈川県横浜市出身。横浜創学館高等学校出身。12歳よりクラリネットを始める。

2021年第24回“長江杯”国際音楽コンクール 管楽器部門 大学の部 第6位入賞。これまでにクラリネットを伊藤寛隆、飯島泉の各氏に師事。室内楽を星野均氏に師事。

7 本間 美桜(Saxophone)

Pf.大嶋 千暁

J.イベール / 室内小協奏曲

Jacques François Antoine Ibert(1890-1962) //

Concertino da camera

第1楽章 Allegro con moto

第2楽章 Larghetto - Animato molto

ジャック・イベールはパリ生まれのフランスの作曲家。

この作品はソプラノ歌手であるマリー・フロイントに依頼されて、1935年にドイツのサクソフォン奏者シグルド・ラッシャーに献呈された。ラッシャーはこの作品の1年間独占演奏契約を結んだが、イベールは曲の誕生に貢献したマルセル・ミュールが演奏することを望み、ラッシャーによる公的初演に先駆けてミュールによる放送初演が行われている。

タイトルの「カメラ」とは「(室内楽に適した)コンパクトな空間」を表す語で、原曲は小規模のオーケストラとともに演奏されるが、本日はピアノ・リダクション版で演奏する。

第1楽章 Allegro con moto

4分の2拍子のソナタ形式。不協和音を含む短い序奏に続いて、躍動的な第1主題がサクソフォンによって演奏される。第2主題は穏やかなもので、第1主題とは対照的な雰囲気となっている。

第2楽章 Larghetto

サクソフォンの「朗唱のような(quasi recitativo)」無伴奏の独奏で始まり、弱音の伴奏と共に主題へと繋がるが、主題が解決しないままアタッカで animato molto につながる。

Animato molto

ロンド形式。この主題は転調を繰り返し演奏され、第2楽章の主題も交えながらサクソフォンによるカデンツァに突入する。カデンツァの後冒頭が再現され、イ長調により華やかに終演する。

〈Profile〉

東京都出身。目白研心高等学校出身。

12歳よりサクソフォンを始める。第12回日本管弦打楽器ソロコンテスト高校生の部金賞及び読売交響楽団賞受賞。第27回日本クラシック音楽コンクール高校の部5位入賞(1,2,4位なし)。サクソフォンを浅利真、國末貞仁の各氏に師事。室内楽を江川良子、本堂誠、貝沼拓実の各氏に師事。